

ともだち



人と人との出会いを大切に
笑顔の輪を広げましょう

高崎市国際交流協会会報第112号

2023.10

◆トピックス(2023年7月~8月)

■多文化サロン~ラオス~



7月29日、中央公民館で多文化サロンが開催されました。ラオスにルーツを持つアンソニーさんが、ラオスの文化や日常生活を紹介しました。13人の参加者にはラオスのお菓子とジュースがふるまわれ、「ラオスについてよく知らなかったがとても面白かった」などの感想が寄せられました。(都市友好部会)

■機関訪問

~東京国立近代美術館と外務省~



8月23日、市内在住の小学4年生から中学2年生16人が、東京国立近代美術館と外務省を訪問しました。美術館では、対話型ギャラリートークで所蔵作品を鑑賞したほか、企画展「ガウディとサグラダファミリア展」を鑑賞しました。外務省では、記者会見室を見学した後、国際会議室で外務省職員から話を聞きました。スペシャルゲストとして、高崎女子高校出身の職員が登場し自身のキャリアや現在の仕事について話をしました。

◆おしらせ(2023年10月)

■第31回国際交流の集い

日時：10月29日(日曜日)

午前11時~午後3時

場所：ビエント高崎(問屋町)

詳しくは同封のチラシを見てください。★高崎市国際交流協会会員の方は会員証の提示でプレゼントがもらえます

こうした青少年を対象とした訪問事業は、豊かな国際感覚や多角的な考えを醸成する一助となることを期待して企画されています。(青少年育成部会)

機関訪問について 塚沢中学校2年 小林 茜



8月23日、私たちは国立近代美術館と外務省を訪問しました。

美術館では、近世から現代にかけてのアートの移り変わりを感じながら作品を鑑賞しました。そして、作品に対する感想や意見を様々な人から聞くことにより、自分には思い浮かばなかった考え方を発見することができました。

外務省では、担当の方々から興味深いお話をうかがいました。特に国際会議の際には会食や会合の準備なども外務省職員の方々が行っていると知り驚きました。このようなホームページには載っていないことを教えて頂きとてもためになりました。

私はこれらのことを今後の進路に生かそうと思っています。今回のような、滅多にできることのない貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。



外務省内国際会議室



東京国立近代美術館 所蔵作品展 MOMAT コレクション (2023.8.23)

~国際交流の集い インターナショナルバザー用品募集~

バザーの売り上げは、『SMILE BY WATER』(アジア・アフリカ諸国に安全な水を届ける支援)とプラン・インターナショナル(途上国の女の子の自立支援)に全て寄付します。

【募集内容】

海外の雑貨や衣料品: アクセサリー、ピンバッジ、ポストカード、置物、カトラリー、Tシャツ、帽子、スカーフなど 和小物: 扇子、箸置き、巾着、手ぬぐい、風呂敷など※未使用のものをお願いします。※食品(酒類を含む)、化粧品、サイズの大きいもの、古着、本、硬貨は受け付けません。

【受付方法】

10月16日(月曜日)~25日(水曜日)の間に国際交流コーナーへ持参もしくは郵送してください。※郵送の場合は事前連絡の上、送料の負担をお願いします。※品物は全て無償の提供とし、品名と国名をお知らせください。

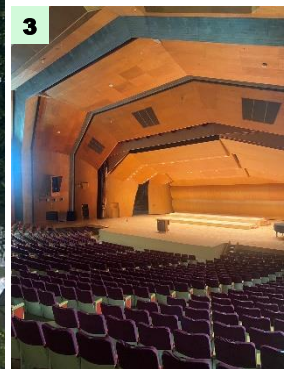
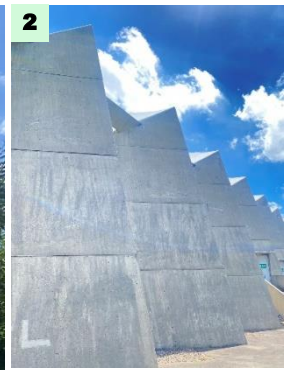


行ってみよう!

外国にゆかりのあるところ in たかさぎ

高崎市内の外国にゆかりのある場所やそれにまつわる人を紹介します。

第3回 アントニン・レーモンド ～群馬音楽センターと旧井上房一郎邸～



■群馬音楽センター

1961年の完成以来、高崎市の文化のシンボルである群馬音楽センターはチェコ出身の建築家アントニン・レーモンドにより設計されました。レーモンドはプラハ工科大学(現チェコ工科大学)で建築を学び卒業後アメリカに渡り、1919年に帝国ホテル設計施工の助手としてフランク・ロイド・ライトと共に来日します。1920年に独立し日本に長期滞在しました。日本での活動を通じて、レーモンドは日本の建築や都市計画に影響

を与え、日本の建築家と共に数多くのモダニズム建築を残しました。

1956年、全国で30万人を動員したという映画「ここに泉あり」によって群馬フィルハーモニーオーケストラ(現群馬交響楽団)の音楽活動が注目され、全国で初めて「音楽モデル県」として文部省(現文部科学省)から指定されました。これを契機に「高崎に音楽センターを」の声が高まり、行政・市民一体となり建設運動が展開されました。当時は市の財政が苦しく、市民から募った多くの寄

付金が建設費に充てられました。そして群馬初代会長井上房一郎と戦前から親交のあったレーモンドに設計が依頼されました。依頼の内容は、音楽を良質に聴くことができること、歌舞伎などの演劇も上演できること、低予算で作ること等、厳しいものでしたが、レーモンドはそれらを見事に実現させました。

完成した群馬音楽センターは、最大スパン60mの鉄筋コンクリート折板構造で、内部は地下1階・地上2階で構成されています。正面はガラ

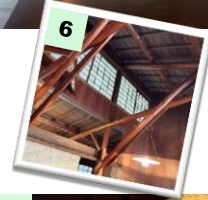
モダニズム建築(近代建築)とは?

機能的、合理的な造形理念に基づく建築。産業革命以降の工業化社会を背景として19世紀末から新しい建築を求めるさまざまな試行錯誤が各国で行われ、1920年代に機能主義、合理主義の建築として成立しました。19世紀以前の様式建築(歴史的な意匠)を否定し、工業生産による材料(鉄、コンクリート、ガラス)を用いて、それらの材料に特有の構造、表現を持つ建物。

アントニン・レーモンド ギャラリー

群馬音楽センターロビーに、模型やプロフィール、パネルを展示したギャラリーがあります。見学の際は、事前に群馬音楽センターに問い合わせをしてください。





1 群馬音楽センター外観 2 折板構造の建物側面 3 群馬音楽センターホール 4 庭園から見た旧井上房一郎邸外観
 5 庭園を一望できる開放的な居間。レーモンドの妻ノエミがデザインしたテーブルやランプなどが置かれています
 6 鉋状トラス 7 和室からも庭園を楽しめます

ス張りで側面と屋根は重厚なコンクリートで覆われ、その独特な造形は目を見張るものがあります。1999年にはドコモモ（近代建築の保存と調査のための国際組織）が選定する「日本の近代建築 20 選」にも選ばれ、日本のモダニズム建築の代表となりました。1932 席あるホールでは、コンサートはもちろん、さまざまな式典や講演会が行われてきました。完成して 60 年以上経ちますが、今でも多くの人々に親しまれ、幾度も改修され大切に使われています。

■旧井上房一郎邸

高崎市美術館内にある旧井上房一郎邸は、東京・麻布の筈町に 1951 年に建てられたレーモンドの自邸兼事務所を写した建物です。1952 年に自邸を焼失した井上は、レーモンドの筈町の自邸を再現しようと計画し、レーモンドの快諾を受け、設計・建設をしました。この旧邸は柱や登り梁を 2 つ割りの丸太で挟み込む構造「鉋状トラス」などのいわゆる「レーモンド・スタイル」がよく表れています。井上はここに群馬の風土に合わせたアレンジを加え、また

高崎の風景を表した中庭を設置しました。レーモンドの筈町の自邸は事務所移転と共に取り壊されているため、旧井上房一郎邸は失われたレーモンドの自宅の様子を知る事ができる貴重な建物です。

荘厳でダイナミックな造りの群馬音楽センターと、静寂に包まれ落ち着いた雰囲気の高崎市の旧井上房一郎邸は、対照的な建築ではありますが、ともにレーモンドと井上の国を越えた友情から生まれた高崎市を代表する建築物であるといえるでしょう。

（広報宣伝部会）

■群馬音楽センター■

住所：高崎市篤松町 28 番地 2
 電話：027-322-4527
 受付時間：午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分
 休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始
 駐車場：城址地下駐車場、高松地下駐車場（有料）
 ※施設見学は無料です。事前に問い合わせをしてください。



■旧井上房一郎邸■

住所：高崎市八島町 110-27（高崎市美術館内）
 電話：027-324-6125
 邸内公開時間：午前 10 時～11 時、午後 2 時～4 時
 観覧料金：美術館の観覧料金に含まれます
 休館日：高崎市美術館に準ずる
 駐車場：近隣提携駐車場有り。美術館受付にて駐車券提示で 1 時間無料。

